

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 28 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02657

研究課題名(和文)オスマン碑文詩の研究

研究課題名(英文)Historical Research of the Ottoman Inscriptions

研究代表者

林 佳世子 (Hayashi, Kayoko)

東京外国語大学・その他部局等・学長

研究者番号：30208615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では(1)「オスマン碑文データベース」の拡張と(2)そこに含まれる碑文詩を活用した研究を実施した。

(1)「オスマン碑文データベース」の拡張では、現地調査済みの碑文に加え、文献調査により、バルカンやアラブ地域に残る碑文に関するデータを加え、7627碑文のデータベースを構築した。各データは、碑文のある建造物に関するデータ(建設者、建設年、位置情報など)と碑文のテキストに関するデータ(種類、言語、テキスト、作者など)からなり、今後の研究の基礎となる。このうち388碑文のデータを新たに公開し、公開総数は1948となった。(2)ではイスタンブルやカイロに関し、碑文資料を用いた歴史研究を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、バルカン、アナトリア、アラブ世界の各地に残るオスマン碑文を収集し、その情報を整理することを目的とする。オスマン帝国下にあった地域は、その後、民族主義的な各国政府のもの置かれ、オスマン帝国の遺産は、多くの場合、等閑視されたきた。しかし、この地の未来の平和のためには、共通の歴史認識の涵養が不可欠である。本研究は旧オスマン帝国領の各地に残るオスマン碑文の内容を明らかにするものであるが、その情報をインターネットを通じて公開することを通じ、学術研究成果を社会に還元することを意図している。

研究成果の概要(英文)：I have been engaged in producing the database for the Ottoman inscriptions since 2009. In this study, I expanded it by adding new data, especially poetry inscriptions. I also conducted historical researches based on the poetry inscriptions in Istanbul and Cairo. During this study period 388 new inscriptions located in Istanbul were made public. Inscriptions already surveyed and those elicited from various publication were also included in the database. Eventually the database presently contains the data of 7627 inscriptions in the Balkans, Anatolia and Arab area. Each item of the database gives information about the genre, language, author and the text of the inscription, as well as that about the building on which the inscription was attached. Such information enables us to make a further research.

研究分野：西アジア史、オスマン帝国史

キーワード：オスマン帝国 歴史史料 碑文

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者が平成 24 年～26 年に実施した基盤研究 (C)「オスマン朝における詩と詩人の文化・社会史研究」の後継研究である。

バルカン、アナトリア、中東の広汎な地域を支配したオスマン朝に関しては、政治史、制度史分野の研究蓄積が豊富である。その内容は、申請者が分担執筆した『イスラム都市研究 - 歴史と展望』(1991 年刊行、東京大学出版会)や『イスラム世界研究マニユアル』(2008 年刊行、名古屋大学出版会)の関連項目に詳しい。しかし、これらのサーベイでも指摘したように、人々の日常生活や文化活動に関する社会史的研究の蓄積は乏しく、オスマン史研究全体が「国家と政治」に特化している感は否めない。その原因のひとつは、史料状況に求められる。オスマン朝は膨大な歴史史料を残したが、その多くが統治や徴税にかかわる文書史料だからである。また、文筆家の活動も、国家論・政治論などの論説類と、法学や思想などのイスラム関連の学問分野に偏っている。これに対し、オスマン朝社会史・文化史研究の材料となりうる散文作品の数は非常に限られている。こうした史料状況が、日常生活や文化、人々の心性を扱うオスマン朝期の社会史研究を阻害してきた。

しかしこの状況はこれまで「史料」として十分な関心の払われてこなかった「韻文(オスマン詩)」の文学作品群を視野にいれることで打開が可能だと思われる。この点は、申請者が「イスラム史研究と歴史史料」(林佳世子・柘屋友子共編著『記録と表象 史料が語るイスラム世界』、東京大学出版会 2005 年)で強調した点である。同様の指摘は、Hatice Aynur, "Osmanli Literature" (in S.Faroqhi ed., *The Later Ottoman Empire, 1604-1839*, 2006)などにもみられる。

実際、近年では、オスマン詩を史料として利用した新しい歴史研究が現れている。たとえば、オスマン朝社会における「恋愛」を扱った Dror Ze'evi, *Producing Desire: Changing Sexual Discourse in the Ottoman Middle East 1500-1900* (2006)や Walter G. Andrews and Mehmet Kalpakli, *The Age of Beloved* (2005)などである。また、オスマン詩の史料価値を検討した研究には、Vildan Sendaroglu, *Sosyal Hayat Isiginda Zati Divani* (『社会生活からみたザーティー詩集』) (2006)、Ozge Oztekin, *XVIII. Yuzyil Divan Siirinde Toplumsal Hayatin Izleri: Divanlardan Yansiyen Goruntuler* (『18 世紀ディーワーン詩にみる社会生活の痕跡』) (2006)などがある。さらに Halil Inalcik, *Has-bagcede Ays u tarab* (『庭園の饗宴』) (2010) は宮廷詩人の活躍を描き、オスマン朝文化史研究に新境地を開いた。日本でも、宮下遼「16 世紀「描写の書」に見るオスマン朝古典詩人の商工業者像」(『イスラム世界』2013)が現れ、申請者も 2008 年に刊行した『オスマン帝国 500 年の平和』(講談社)における歴史分析のなかで、パーキー、ザーティー、ハイラーティ、ネディーム、ナービー、ニサーイーらの詩人とその作品をとりあげ、社会において詩人が果たした役割と詩の中に反映した社会状況の抽出を試みた。しかしながら、申請者の研究も含め、これらの研究は史料として断片的に詩のテキストを利用したに過ぎない。詩を社会史研究の史料として用いるには、まず、社会における詩と詩人の役割を十分に解明する必要があり、本研究は、その端緒となることを目指すものである。

2. 研究の目的

本研究は、オスマン朝期の碑文詩に関する包括的研究を実施する。イスラム世界には、建造年を読みこんだ詩を碑文に刻み、建物入口に掲げる伝統があるが、オスマン朝時代の碑文詩については、現在に至るまでその集成・研究は十分に行われておらず、内容は明らかでない。本研究では、平成 24 年～26 年に申請者を中心に構築した「オスマン碑文データベース」を拡張し、碑文詩のデータを抽出することにより、詩文コンコーダンスを作成し、主要な建物の碑文詩を分析する。これにより、碑文詩の形式、内容、ならびに建物と詩、建物の建設者(パトロン)と詩人の関係を、具体的に整理する。その結果として、碑文詩のもつ文化的・歴史的な価値、特にオスマン朝時代に詩人らが果たした社会的な役割とその歴史的変化を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)「オスマン碑文データベース」の拡張

申請者は、平成 24 年～26 年に実施した基盤研究 (C)「オスマン朝における詩と詩人の文化・社会史研究」により、オスマン朝時代の碑文に関する調査を実施し、イスタンブールについて、1174 の建造物に含まれる 2546 の碑文についてデータベースを構築した。その成果の一部は、Database for Ottoman Inscriptions (<http://info.ottomaninscriptions.com>)において公開されている。2546 の碑文の内訳は、スルタンの花押文様 278 件、コーランやハディースなど宗教的フレーズ 625 件、散文による説明碑文 386 件、碑文詩 1051 件、その他 58 件であった。

本研究では、このデータベースの拡張をめざす。すでに、前研究において着手していたブルサ、エディルネなどのアナトリアの他都市の他、ギリシャやバルカン地域、エジプトなどのオスマン碑文データを解説、整理し、本データベースに追加する。また、追加的な現地調査を実施し広大なオスマン帝国の旧領域に点在する碑文に関する情報の整理に努める。

(2)「碑文詩 オスマン社会における詩の利用」研究

上記をふまえ、全碑文のうち、「碑文詩」を研究対象とする。碑文詩は、オスマン朝の詩人の多くが、スルタン一族や軍人、政治家など有力者の家に出仕し、彼らのために詩を書く過程で作

成されたものである。これは、文学作品である詩が、一種の「商品」として、社会の中で活用されていたことを示すものである。本研究では、各詩人ごとに編まれた「詩集（ディーワーン）」に含まれる献上詩との関連性を踏まえつつ、実際の建物の入り口に掲げられた碑文から「碑文詩」のテキストを抽出し、「碑文詩」テキストの分析を行う。

4. 研究成果

(1) 「オスマン碑文データベース」の拡張

Database for Ottoman Inscriptions (<http://info.ottomaninscriptions.com>) の拡張に関しては、現地調査済みの碑文に加え、文献調査により、バルカンやアラブ地域残る碑文に関するデータを加え、総データ数 7627 のデータベースを構築した。データの完成した 388 件のデータを一般公開し、全体で 1948 件の碑文情報を公開した。

7627 の碑文データの内訳はつぎのとおりである。

【国別】

アルバニア 2 碑文	マケドニア 39 碑文	キプロス 34 碑文
ブルガリア 110 碑文	ルーマニア 12 碑文	シリア 37 碑文
ボスニア 24 碑文	セルビア 17 碑文	イラク 5 碑文
コンボ 100 碑文	トルコ 6498 碑文	エジプト 46 碑文
ハンガリー 5 碑文	ギリシャ 155 碑文	アルジェリア 80 碑文

【トルコの県別】

アダナ 34 碑文	ディヤルバクル 10 碑文	クルクラレリ 14 碑文
アフヨン 64 碑文	エディルネ 327 碑文	コジャエリ 18 碑文
アクサライ 1 碑文	エラズー 1 碑文	コンヤ 173 碑文
アマシヤ 50 碑文	エルズインジャン 1 碑文	キュタヒヤ 16 碑文
アンカラ 51 碑文	エルズルム 75 碑文	マニサ 26 碑文
アンタリヤ 44 碑文	エスキシェヒル 1 碑文	ネヴシェヒル 34 碑文
アイドゥン 2 碑文	ガズィアンテプ 76 碑文	オルドゥ 5 碑文
バルケシル 51 碑文	ギュムシュハネ 4 碑文	リゼ 1 碑文
ビレジク 12 碑文	ウスパルタ 2 碑文	サカルヤ 16 碑文
ボドルゥム 10 碑文	イスタンブル 4125 碑文	シバス 5 碑文
ボル 5 碑文	イズミル 104 碑文	トカト 13 碑文
ブルサ 270 碑文	カラビュク 113 碑文	トラブゾン 81 碑文
チャナッカレ 23 碑文	カスタモヌ 12 碑文	ウシャク 9 碑文
チャンクル 2 碑文	カイセリ 17 碑文	ヨゾカト 1 碑文
デニズリ 2 碑文	キリス 93 碑文	その他・不明 491 碑文

これらに関しては、本研究終了後も引き続き、データの完成度を高め、随時公開を予定している。

(2) 「碑文詩 オスマン社会における詩の利用」研究

本研究期間中には、2019 年にイスタンブル近郊農耕地帯での調査を行い、Kilyos Kalesi (Kilyos)、Emetullah Hatun Çeşmesi (Zekeriyaköy)、Şamlar Camii (Şamlar Köyü/Başakşehir)、Odacı İsmail Ağa Çeşmesi (Dursunköy) などに関し、実測・写真撮影により現状を調査した。いずれも、イスタンブルの郊外の開発と関連する碑文であり、モスクや泉水の建設者と碑文詩提供者に関する研究の基礎データを収集することができた。

また、エジプトのカイロに関しては、オスマン支配時代に建設された以下の建造物について調査を行い、モスク、マドラサ、泉水、商人宿などについて建設者と碑文詩提供者に関する基礎データを収集した。

[モスク] Fakahani モスク、Muhammad Ali モスク、Suleyman Pasa モスク、Mahmud Pasa モスク、Zu al-Fiqar Bey モスク、Suleyman Aga Salahtar モスク 泉水複合施設

[学校] 兵学校、マフムード 1 世のマドラサ 泉水複合施設

[泉水・学校複合施設] Tusun Pasa (Muhammad Ali) の泉水・学校複合施設、Ruqayya Dudu の泉水・学校複合施設、Ali al-Mutahir の泉水・学校複合施設、Ibrahim Pasa の泉水・学校複合施設、Sultan Mustafa の泉水・学校複合施設、Besir Aga Dar al-Saada の泉水・学校複合施設、Yusuf Aga al-Hin の泉水・学校複合施設、Abdurrahman Kethuda の泉水・学校複合施設

[泉水] Nafisa Bayda 泉水、Mustafa Sina 泉水

[商人宿と泉水複合施設] Oda Basi の施設

それぞれの碑文詩には、オスマン帝国のエジプト支配者が、いかに都市の開発・復興に関わったかが示されており、今後、これらの情報の整理の上、順次公開する予定である。

今回の研究では、依然としてデータベースに含まれる全データの公開には至らなかった。引き続き、その完成に向けた作業を続ける。また、碑文より「碑文詩」のテキストを抽出し、その分析を活用した歴史研究をさらに進めていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 林佳世子	4. 巻 35
2. 論文標題 イスタンブル・聖ソフィアでの祈り	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アンジャリ	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kayoko Hayashi	4. 巻 51
2. 論文標題 Ayasofya Vakfi'nda Bir Yil: 1667	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Turkish Studies (Oxford University)	6. 最初と最後の頁 343-362
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Hakan Karateke, Kayoko Hayashi & Hatice Aynur
2. 発表標題 Database for Ottoman Inscriptions, 2009-2019
3. 学会等名 Inscriptions of the Islamic World: A Conference co-hosted by The University of St. Andrews and the American University in Cairo AUC Tahrir Square Campus, Cairo 6-8 September 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 林佳世子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八旗文化	5. 総ページ数 431
3. 書名 鄂圖曼帝國五百年の和平：跳脱土耳其視角の非伊斯蘭帝國	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----